

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「大塚だからできる！大塚は夢をかなえる！大塚からはばたけ！」
 生徒の第一希望をかなえる進学にも就職にも強い学校をめざします。
 ・ 普通科...多様な生徒の幅広い教育ニーズに応え、地域に根ざした学校
 ・ 体育科...競技力の向上と府民のスポーツの振興、発展の拠点校としての学校
 社会的自立、社会貢献のできる生徒を育てます。

2 中期的目標

1 確かな学力の向上
 (1) 生徒のニーズに応えた学習指導の充実を図る。
 ア IT、少人数展開、習熟度別、ICT 活用などによる生徒が満足できる授業を展開する。
 イ 始業前学習や短期集中講座の実施により、基礎学力の定着をめざした学習を継続的にサポートする。
 (2) 授業改善に積極的に取り組み、教員の授業力向上を図る。
 ア 校内研究授業週間をベースに、教員相互の自主的な授業観察、授業評価を行う。
 イ 生徒対象の授業評価、保護者の授業参観時の評価を授業力向上に繋げる。
 卒業時アンケートにおける「3年間勉学に一生懸命取り組めた。」の肯定率を2021年度には75%以上とする。(平成30年度:62.8%)
 卒業時アンケートにおいて「大塚で3年間学んで学力面で伸びた。」の肯定率を2021年度には70%以上とする。(同上:54.9%)

2 志や夢のはぐくみ
 (1) 生徒が自分の意志と責任で進路を選択できるようにガイダンス機能(的確な情報提供・進路HR・進路相談)の充実を図る。
 進路アンケートにおいて「第1希望をかなえることができた。」の肯定率を2022年度には90%以上とする。(同上:87.4%)
 (2) 大学等の進学情報を収集・提供するとともに、大学見学会やオープンキャンパス等に生徒・保護者が積極的に参加できる機会を設ける。
 (3) 3年間見通した継続的、系統的な進路講習を整備し全校的に計画的に実施する。
 大学(4年制)進学率を2021年度には70%とする。(同上:55.5%)
 センター試験の受験者率を2021年度には20%とする。(同上:14.4%)
 就職内定率を2021年度も100%を維持する。(同上:100%)

3 豊かな心と社会性の育成
 (1) 「あたりまえのこと(挨拶・時間厳守・ルールやマナーの遵守)をあたりまえに！」を合言葉に規律規範の確立に努める。
 ア 生徒全員が明るく大きな声であいさつのできる学校を維持・発展させる。
 遅刻総数(教務遅刻)を2021年度には600件以内とする。(H30:843件)
 イ 教育相談体制を整備・充実し、生徒たちの心のケアに努め、安心安全な学校づくりを推進する。
 ウ 生徒状況の把握と保護者との緊密な連携を図るため、保護者との三者面談100%実施をめざす。
 エ 保健部、人権委員会、学年が連携したケース会議を効果的に運用する。
 オ 学校行事(大塚祭)の充実及び部活動の充実を図る。
 普通科生徒の部活動加入率を2021年度には70%以上とする。(H30:64%)
 (2) 生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格の育成をめざす。

4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進(開かれた学校づくり)
 (1) 活発な部活動と体育科の専門性を活かし、広く府民の体育・スポーツの振興発展を目標に、地元小学校や中学校を中心としたスポーツ交流やボランティア活動を推進する。
 ア 松原市の地元小学校と連携した「ふれあい大塚スポーツ教室」を継続実施する。
 イ 地元中学校の運動部との連携と交流を促進する。
 (2) 2020年東京オリンピック出場をめざし、府民に夢と感動を与えられるようなトップアスリートを育成する。
 ア スポーツ講演会の開催
 イ スーパーインストラクター招聘事業
 ウ 栄養学講習の開催
 (3) 松原市におけるスポーツ関連事業等に積極的に参加し、地域交流・地域貢献を推進する。
 (4) 民間企業との産学連携協定など、進展する少子化に対応するための魅力ある学校づくりを推進する。

5 次代を担う人材の育成
 (1) 若手教員の育成とミドルリーダーの養成を図る。
 ア 管理職や中堅教員が講師となり、教職経験年数の少ない教員を対象とした校内研修を実施し、人材を育成する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年10月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【授業】 (生徒)「授業はわかりやすく楽しい」 肯定率 41.2% (以下肯定率) (教員)「生徒のレベルに応じたわかりやすい授業に努めている」 78.2 授業力向上に積極的に取り組み生徒の肯定率は昨年度より11P上昇した。しかし、依然として両者の差は大きく一層の改善策の検討が必要である。</p> <p>【生徒指導】 (生徒)「学校生活についての先生の指導は納得できる」 53.0% (教員)「学校の指導方針について共感できる」 63.3% (保護者)「一人一人の生徒に向き合った生徒指導を行っている」61.8% 生徒の肯定率は昨年度と比べ8.1P上昇しているものの50%強であり、また教員、保護者も60%を超える程度であることから、生徒の生活背景や保護者の想いを踏まえた生徒指導に努める必要がある。</p> <p>【進路指導】 (生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」 70.6% (保護者)「進路や職業などについて適切な指導を行っている」 71.6% (教員)「生徒が興味・関心、適性に応じた進路選択ができるようきめ細かい指導を行っている」 65.5% 昨年度と比較し生徒8.4P、保護者4.0P、教員3.3Pと上昇しており、今後とも一層の指導の充実を図り、より多くの生徒・保護者が進路指導に関する認識を高め、生徒の進路実現に繋げる必要がある。</p> <p>【学校運営】 (教員)「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」 83.6% (教員)「学校運営に校長のリダーシップが発揮されている」 69.1% (教員)「校務分掌などの分担がなされ教職員が意欲的に取り組む環境にある」 63.6% 校長の学校運営方針等が一定浸透していると推察できる。特に、「意欲的に取り組む環境にある」については、19.2Pも大幅に上昇しており、引き続き、教員が意欲的に取り組めるような校内体制の整備に取り組む。</p>	<p>第1回(令和元年6月3日) 学校経営計画について ・ 経験年数の少ない教員の育成のためフレッシュマンセミナーを実施している。大阪府の教員として通用する資質を身につけるよう指導している。 ・ 本校の特徴は活発な運動部活動であり、部活動を目指して体育科・普通科とも頑張っている。一方、部活動に属していない普通科生徒の居場所づくりが課題である。</p> <p>第2回(令和元年11月12日) 学校教育自己診断アンケート結果について ・ 生徒評価で「授業」「いじめ対応」「防災」「将来の生き方」「人権」「大塚祭」など多くの質問項目で昨年度と比べて10P以上上昇している。学校が前進しているのがよくわかる。 授業アンケート結果及び授業見学 ・ ICTを活用した授業を見学した。全教室にプロジェクターを設置するなど、ICTの充実を望む。 ・ 授業アンケート結果全体の肯定率は概ね8割と非常に高く、生徒は授業について肯定的に捉えている。見学した授業の様子からもそのことが伺える。</p> <p>第3回(令和2年2月3日) 平成31年度学校経営計画評価(案)について 令和2年度学校経営計画(案)について ・ 平成31年度の評価を踏まえて、令和2年度の計画が作成されている。 令和2年度経営計画「めざすべき学校像」及び「中期的目標」が承認された。 第2回授業アンケート結果について ・ 「授業がわかりやすい」の項目が大幅に上昇しており、工夫・改善されていることが分かる。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の向上	<p>(1) 授業改善と生徒の学力を高める取組みの充実 ア 授業改善に向けた取組みの推進</p> <p>イ ICTを活用した授業の推進</p> <p>ウ 生徒の学習意欲の向上への取組み</p> <p>エ 新教育課程への対応</p>	<p>(1) ア・アクティブラーニングを取り入れた授業改善に関する教員研修を実施する。 ・1・2学期に設定している研究授業週間に加えて、すべての授業を公開授業とし、授業改善に繋げる。 ・教員の個別面談を実施し、授業アンケート結果の独自分析を行い、効果的にフィードバックする。 ・習熟度別展開授業やTT授業などにより、個々の生徒に応じた学力の向上を図る。</p> <p>イ・ICT機器の整備を図り、ICTを活用した授業を推進し、生徒の興味・関心を高める</p> <p>ウ・全員対象の始業前学習の充実や成績不振者を対象にした短期集中講座を実施し、生徒の基礎学力の定着を図る。 ・クラス減に伴う空教室の整備を行い自学自習の習慣を確立させる</p> <p>エ・新カリキュラム委員会・将来構想委員会において、大塚高校の将来像を踏まえたカリキュラムの検討を行う。</p>	<p>ア・教員向け学校教育自己診断「参加体験型の学習などの指導方法の工夫・改善」の肯定率65%(H30:58%) ・教員相互の授業見学を行い、全教員が各授業観察シートを提出する。 ・管理職による授業観察と個別面談の実施 ・生徒向け学校教育自己診断において「授業はわかりやすく楽しい」の肯定率40% ・授業アンケートの全項目(9項目)の平均肯定率 83%(H30:79.7%)</p> <p>イ・教員向け学校教育自己診断「ICTを活用した授業」の肯定率50%(H30:47%) ・授業アンケート「授業の内容に興味・関を持つことができた」の肯定率 82%(H30:77.7%)</p> <p>ウ・始業前学習(H30:週平均3回)、定期考査前講習(H30:年間5回)、長期休暇中の補習(H30:夏期10日、冬期4日)の継続実施。</p> <p>エ・新カリキュラム素案の作成</p>	<p>ア・教員向け学校教育自己診断「指導方法の工夫・改善」の肯定率は72.7%で15P上昇し、目標を達成した。() ・全教員が授業観察シートを各授業者に提出した。授業見学は重要性を踏まえ引き続き、取り組んでいく。() ・生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」の肯定率は41.2%で目標を達成した。次年度も目標を上方修正して取り組む。() ・全項目の平均肯定率は82.0%であり、昨年より上昇したが、わずかではあるが目標を達成できなかった。次年度は行事等の精査を行い、授業時間の確保に努め、授業改善の取組みを推進していく。()</p> <p>イ・教員自己診断「ICTを活用した授業」の肯定率69.1%と大幅に目標を上回った。ICT環境の整備が課題である。() ・授業アンケート「授業の内容」の肯定率は82.0%で目標を達成した。引き続き取組みを継続していく。()</p> <p>ウ・始業前学習、定期考査前講習、長期休暇中の補習を計画通り実施した()</p> <p>エ・新教育課程の素案を作成した。次年度は、本校の特徴を生かし、生徒の進路実現する多様な選択が可能な教育課程の完成をめざす。()</p>
2 志や夢のはぐみ	<p>(1) 夢の実現に向けた進路指導の推進 ア ガイダンス機能の充実</p> <p>イ 進学講習の推進</p> <p>ウ キャリア教育の推進</p>	<p>(1) ア・学年ごとの進路HR、進路分野別説明会などを実施し、生徒自らの意志で進路を選択できるような的確な情報提供を図る。 ・進路指導室の充実を図り、相談や資料閲覧など生徒の利用を一層促進する。 ・全1年生を対象とした大学見学会を実施する。</p> <p>イ・放課後講習や休業中の集中講習などの各種発展講習を計画的に実施し、進学希望者を支援する。 ・休業中に学校外の施設において勉強合宿を実施し、学力の向上とともに、進路に対するモチベーションを高める。</p> <p>ウ・教員による企業開拓や面接指導の実施などを個々の希望者の状況に応じた就職指導とともに、公務員試験に向けた講習を実施し、進路実現を図る。</p>	<p>ア・各学年ごとの保護者対象の進路説明会や1・2年生対象の大学、短大、専門学校等から講師を招いた、進路分野別説明会の実施 ・卒業生アンケートの「進路指導室利用」の肯定率70% ・生徒向け学校教育自己診断「進路について必要な情報を提供してくれる」の肯定率73%(H30:69.0%)</p> <p>イ・早朝、放課後講習や夏・冬休み集中講習、センター試験前の直前講習などの実施 ・3年生は夏季休業中、2年生は春季休業中に桃山学院大学で行う勉強合宿の参加率10%増加 ・大学(四年生、短期)進学率65%以上及びセンター入試受験者率15%</p> <p>ウ・就職内定率100%維持 ・警察、消防、自衛隊等の公務員試験合格者数の増加(H30:1名) ・卒業生アンケートの「第1希望をかなえることができた」の肯定率90%(H30:87.4%)</p>	<p>ア・各学年保護者対象の進路説明や生徒対象の分野別説明会も計画通り実施した。() ・卒業生アンケート「進路指導室利用」の肯定率57.9%であり、目標に達しなかった。() ・卒業生アンケート2月実施 ・生徒自己診断「進路について必要な情報の提供」の肯定率77.4%で目標を達成した。()</p> <p>イ・各種講習を計画通り実施した。() ・3年生の夏季、2年生の春季勉強合宿の参加率は変化がなかった。生徒への周知の方法や実施時期などを工夫し、参加者を増やす取組みを行う。() ・大学(四年生、短期)進学率56.3%であり、目標に達しなかった。()しかし、センター入試受験者率12%で目標に届かなかった。早期の進路先確定をめざす生徒が増えたためと考えられる。「いける」ではなく、「行きたい」大学に進学できるよう、取組みを推進する。()</p> <p>ウ・学校斡旋の就職内定率100%() ・消防、自衛隊等の公務員試験合格者は3名で目標を達成した。() ・卒業生アンケート「第1希望」の肯定率は82.2%であり、進学率と関連しており目標を達しなかった。()</p>
3 豊かな心と社会性の育成	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成と教育相談体制の充実 ア 時間厳守・挨拶、ルールやマナーの遵守できる学校づくり</p> <p>イ 交通安全や薬物乱用防止に向けた規範意識の醸成</p> <p>ウ 個に応じた支援体制の充実</p>	<p>ア・早朝立ち番指導を継続実施する。 ・遅刻の多い生徒に対し、「振り返りシート」などを活用した個別指導を実施する。 ・教員自らが挨拶を励行する。</p> <p>イ 交通安全教室、薬物乱用防止教室の実施や各種集会、「美術」でのポスター作成など、教育活動全体で機会を捉えて、生徒への啓発に積極的に取り組む。</p> <p>ウ・日頃からカウンセリングマインドを持ち生徒に接するとともに、教員間で情報共有を密にし、保健部、人権委員会、学年が連携したケース会議を効果的に運用し、生徒支援に努める。 ・保護者との緊密な連携を図り、個々の生徒の生活背景を含めた状況の把握に努め、課題の早期発見をめざす。 ・教育相談室の有効活用を促進する。</p>	<p>ア・教務遅刻数750件以下(H30:843件)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「先生は言葉遣いなどについて指導してくれる」の肯定率80%(H30:76.3%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」の肯定率65%(H30:59%)</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」肯定率55%(H30:50.1%) ・積極的な「ケース会議」の開催 ・懇談週間を含めた保護者との三者面談の実施率100%</p>	<p>ア・遅刻者数は673件であり、大幅に減少し、目標を達成した。早朝指導などの今年度の取組みの成果である。() ・生徒自己診断「言葉遣いの指導」の肯定率は79.0%でわずかに達しなかったが、生徒の日頃の挨拶の状況等から概ね目標を達成したと考える。()</p> <p>イ・生徒自己診断「命の大切さの学習機会」の肯定率は68.6%であり、目標を達成した。()</p> <p>ウ・生徒自己診断「相談に親身になって応じてくれる先生がいる」肯定率は56.3%であり、目標を達成した。次年度も教員研修の充実を図り、生徒の支援に努める。() ・事情があった場合を除き、保護者との三者面談は概ね実施できたが、懇談週間の効果的なあり方について検討する。()</p>

<p>3 豊かな心と社会性の育成</p>	<p>(2) 特別活動等を通じた自己有用感の醸成と、集団への帰属意識の向上 ア 部活動活性化へ向けた取組みの推進</p> <p>イ 学校行事の充実</p> <p>(3) 生命の尊さに気づかせ自他を認める態度や人格の育成 ア 総合的な人権教育の推進</p> <p>イ 災害時に自らの命を守る行動ができるよう安全指導の徹底</p>	<p>(2) ア・クラブ紹介の充実や新入生全員がクラブ見学に参加するなど体験入部の方法を改善し、普通科生徒の部活動入部を促進する。</p> <p>イ・自治会が中心となり、大塚祭文化の部の全体発表や体育の部の団構成などの活性化を検討する。</p> <p>(3) ア・「人権教育推進計画」に基づき、教科や特別活動など教育活動全体で人権教育を実施する。 ・教員対象の研修会を実施し、生徒に寄り添い人権に配慮した生徒指導、部活動指導などに努める。</p> <p>イ・日常的に安全教育・指導に努め、災害時の避難行動について理解できるよう、実践的な避難訓練の実施を行い、生徒の安全に関する、意識の向上を図る。</p>	<p>ア・普通科の部活動入部率 70%(H30:64%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断「大塚祭等、学校行事は工夫されている」肯定率 45%(H30:39%)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会がある」の肯定率 70%(H30:61%) ・卒業生アンケートの「人権問題に関心をもっていますか。」の肯定率を 78%(H30:74.1%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断「災害時の避難行動について具体的に知らされている」の肯定率 70%(新)</p>	<p>ア・普通科の部活動入部率 66.3%(運 58.0% 文 8.3%)であり昨年度に比べ微増したものの目標に達しなかった。次年度は、文化部の活性化を含めし、取組みを進めていく。()</p> <p>イ・生徒自己診断「学校行事の工夫」の肯定率 57.0%であり、目標を大きく上回った。今年度の取組みの成果であり、次年度も行事の工夫改善を進めていく。()</p> <p>ア・生徒自己診断「人権の学習機会」の肯定率は73.1%で、昨年度より大幅に向上し目標を達成した。() ・卒業生アンケートの「人権問題の関心」の肯定率は 79.2%で目標を達成した()</p> <p>イ・生徒自己診断「災害時の避難行動」の肯定率は 61.1%であり、目標に達しなかった。今年度新たに事前予告の無い避難訓練を実施したが、実施時期が自己診断後であったため、反映されなかったと推測する。継続して創意工夫した取組みを進めていく()</p>
<p>4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進</p>	<p>(1) 競技力の向上とスポーツ拠点校としての取組みの強化 ア 競技力向上と効果的な指導方法の研究</p> <p>イ 地域とのスポーツ交流と地域貢献の推進</p> <p>ウ 学校広報の充実</p>	<p>ア・全生徒対象にトップアスリートを招聘した「スポーツ講演会」や運動部活動における「スーパーインストラクター招聘事業」などを実施し、スポーツ拠点校としての意識を高める。 ・ソフト・ハード面の充実を図り、高校スポーツ界の夢の舞台である全国高校総体への出場をめざし、さらなる競技力の向上に努める。 ・「運動部活動ガイドライン」を踏まえ、週1日の活動休止日の設定や効果的な活動時間、練習方法を研究する。</p> <p>イ・地元小学生を対象した「ふれあい大塚スポーツ教室」や地元中学校運動部を招いた「大会」を実施し、本校の教育資源を活用し、拠点校としてスポーツ交流を推進する。 ・地域交流として自治会の地元中学校との連携及び市民文化活動、地域フェスタに積極的に参加し、地域交流・貢献に努める。</p> <p>ウ・広報活動全般を企画・立案、統括する新たな組織を設置する。 ・外部で行われる学校説明会・相談会に積極的に参加し、全教員で大塚高校の魅力を伝えるための工夫・改善に取り組む。また、本校で実施する学校説明会(年間4回実施)の充実を図る。 ・全教員による中学校訪問を実施し、本校の教育活動の周知を図る。 ・HPをリニューアルし、迅速な更新を行い、広く中学生等への情報発信に努めるとともに、在校生保護者の安心・信頼感を高める。</p>	<p>ア・「スポーツ講演会」生徒アンケートの肯定率 85% ・スーパーインストラクター招聘事業の継続実施(H30:12回) ・全国高校総体への複数クラブの出場(H30:男子バレー、陸上、)</p> <p>イ・「ふれあい大塚スポーツ教室」の種目と参加者の増加(H30:5種目153名) ・地域中学校の運動部を招待した大会「大塚CUP」の開催(H30:3大会:32校参加) ・文化部の交流事業への複数回の参加(H30:2回) ・生徒向け学校教育自己診断で、「授業や部活動を通じて、小中学校、地域の方々と交流する機会がある」の肯定率 45%(H30:38.2%) ・生徒向け学校教育自己診断で、「学校に行くのが楽しい」の肯定率 体育科 83%、普通科 68%(H30:体育科 79% 普通科 64%)</p> <p>ウ・広報委員会(仮称)の設置 ・外「ストリー-ヤット加」-などの新規作成 ・学校説明会の参加者 1,000名以上(H30:計 943名)</p> <p>・中学校訪問数 130校以上(H30:116校)</p> <p>・民間委託によるHPの全面改修</p>	<p>ア・「スポーツ講演会」生徒アンケートの肯定率 98%であり目標を達成した。() ・スーパーインストラクター招聘事業については、予算削減のため 11回の実施となった。() ・全国高校総体に陸上部、ソフトテニス部の2部が出場した。また、男子バレーボール部が国体・春高バレーの全国大会に出場を果たし、目標を達成した。()</p> <p>イ・「ふれあい大塚スポーツ教室」のは5種目2小学校 82名が参加した。参加者は減少しており、今後対象校の拡大を含め、多くの児童が参加できる方法を検討する必要がある。() ・地域中学校の運動部を招待した大会「大塚CUP」を開催した。() ・文化部の地域交流事業の参加は4回。引き続き生徒会の地域交流と合わせて、可能な限り参加を進めていく。() ・生徒自己診断「小中学校との交流機会」の肯定率は 38.3%で昨年度と同じであり目標を達成できなかった。実際は各運動部において、日常的に合同練習等の交流を行っており、今後、位置づけを明確にする必要がある。() ・生徒自己診断で、「学校に行くのが楽しい」の肯定率 体育科 81.8%、普通科 68.6%で、体育科はわずかに届かなかったが、ともに昨年度より上昇しており、概ね目標を達成したと考える。次年度は、普通科生徒の満足度を高める取組みを一層進める必要がある。()</p> <p>ウ・広報委員会を設置した。HPを刷新し、4月から公開する。効果的な運用をめざす。() ・大塚高校の魅力を伝えるために外「ストリー-ヤット加」-を作成し、外部の学校説明会において参加者の関心を高めることができた。() ・本校での学校説明会の参加者は 901名であり昨年度より減少し、目標を達成できなかった。しかしながら、参加者アンケートの肯定率は 99%であった。中学校卒業生の減少を考慮し、目標を設定する。() ・132校の中学校訪問を実施した。()</p>
<p>5 次代を担う人材の育成</p>	<p>(1) ア 若手教員の育成とミドルリーダーの養成</p>	<p>ア・初任者も含め、2年目から4年目までの教員を対象とした「フレッシュマンセミナー」を継続実施する。</p>	<p>ア・「フレッシュマン・セミナー」の開催 5回以上(H30 7回)</p>	<p>ア・10年目研修と連携し、「フレッシュマンセミナー」を4回実施した。目標回数には届かなかったが、人材育成に大きく役立っており、次年度も内容を工夫し、継続実施していく。()</p>